

ことば便り



墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO.9
TEL 03-3617-6925
令和6年1月9日(木)



あけましておめでとうございます。お正月はどのようにすごしましたか？初詣や年賀状など、お正月ならではの文化に触れることができたと思います。ぜひお正月の出来事を聞かせてください。

寒い日が続きますが、1月から3月は学年のまとめの時期です。風邪などには十分に気を付けて元気にことばの教室に来てください。

1・2月の行事予定

12月26日(木)～1月7日(火) 冬期休業日

- 1月
- 7日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後)
 - 9日(木)個別指導開始
 - 9日(木)～17日(金)保護者面談
 - 13日(月)成人の日
 - 15日(水)グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
 - 18日(土)押上小土曜授業
 - 21日(火)都難言協研究発表会(午後) ※午後の指導はお休みです
 - 28日(火)都難言協研究発表会(午後) ※午後の指導はお休みです



- 2月
- 4日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後) ※午後の指導はお休みです
 - 11日(火)建国記念の日
 - 19日(水)グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
 - 20日(木)通級相談委員会(9時半～11時半) ※午前の指導はお休みです
 - 23日(日)天皇誕生日
 - 24日(月)振替休日
 - 25日(火)都難言協研究発表会(午後) ※午後の指導はお休みです
 - 28日(金)押上小 卒業を祝う会 ※午後の指導はお休みです



学習発表&お楽しみ会 ご参加ありがとうございました！

12月18日(水)に体育館にて行いました。児童27名と保護者の方々にご参加いただき、前半はクイズ、後半は謎解きに挑戦しました。グループによる「吃音クイズ」「これはなんでしょう？」では子供たちが中心となって進行し、練習の成果を発揮できました。「いろいろクイズ」では多種多様なクイズが出題され、「へえ～そうなんだ！」といった声も上がっていました。後半の「謎解き宝探し」はどのグループも協力して謎解きに取り組むことができました。「みんな！ナゾあったよ！」「とけた！」という子供たちのいきいきとした姿を見ることができました。ご参加・ご協力ありがとうございました。



☆3月12日(水)15:00～ おわりの会を行います！

卒業や退級のお祝い、みんなで楽しめるゲームを予定しております。詳細は後日お知らせいたします。



「クラス」と「ことばの教室」をつなげるために



ことばの教室に通う子供たちは、普段は学級の中で過ごしています。ことばの教室での指導は45分から90分と短く、週に30時間ほどクラスで過ごす中のたったひとときに過ぎません。日頃より学級担任の先生方と情報を共有し、通級児童にとってよりよい環境をつくることができるよう連携しています。今回は、学級でご配慮いただいている支援について一部ご紹介させていただきます。

〈吃音のある児童と、発音の誤りがある児童が在籍するクラスでの支援〉

入学後に“吃音”というワードは出さずに、「みんなが同じ話し方じゃないよ。人それぞれの話し方があるよ。」とクラス全体に伝えました。話し方の真似をする児童がいた場合には「違うよね」と個別に声をかけるなどして対応していました。

また、学校全体の会議で、吃音のある児童が在籍していることを伝えています。学童などで他の学年から指摘されてしまう事もあるため、学校全体で情報共有が大切だと考えています。

発音の誤りがある児童については、発音の誤りによる書き誤りがないか気を付けています。



発表する活動がある際は事前に伝え、練習できる期間を作りました。話すことが苦手な児童に対して、〈タブレットを使う〉〈先生と一緒に言う〉〈自分で言う〉という選択肢を提示し、児童が選択し答えられるようにしました。

吃音のある児童は、教室での様子を早めに保護者と共有し、ことばの教室を紹介しました。



〈読み書きに困難さがある児童が在籍するクラスでの支援〉

ことばの教室で使用した「リーディングリーダー」を、学級の授業でも活用しています。授業でロイロノートを使う時、書くことが苦手な児童は音声入力を使っています。紙に書いて新聞などを作成していた時よりも負担が少なく完成させることができます。

算数などでは学び合いを大切にしています。児童同士が話し合ったり教え合ったりする時間をもつことで、読み書き以外の活動の時間も増やしています。

漢字テストでは、再テストの際に、ことばの教室でロイロノートを使って作成した選択形式のテストを使用しました。読み書きが苦手な児童の負担が減ったと思います。



タブレットで板書を撮影し、ノートを取る代わりとして活用しても良いようにしています。そのために「黒板記録係」を作りました。本人が係活動の一環として他の児童と一緒に活動することで、抵抗なく板書の写真を撮れるようにしています。

宿題については一人一人に合った量を児童本人と相談して決めています。



上記のような「合理的配慮」が行われることで、子供たちにあった環境を提供することができます。合理的配慮を行うためには、情報を共有し、実現可能な対応案を一緒に考えていくことが大切です。

この他にも、毎指導後ご記入いただく連絡帳や、通級に行く際に「いってらっしゃい！」といった先生方からの声かけひとつが子供たちの支えになっています。今後ともよろしくお願いいたします。

アンケートにご協力いただいた先生方、お忙しいなかご回答いただき誠にありがとうございました。